

畜産試験場、畜産試験場養鶏研究所成果発表課題 要約

1. ゲノミック育種価とホミニー飼料給与による熊野牛の脂肪質の向上

(畜産試験場大家畜部 主査研究員 片山晃志)

熊野牛の脂肪質を向上させるため、一価不飽和脂肪酸(以下、MUFA)の割合を高める技術の開発を行っている。現在、ゲノミック育種価とホミニー飼料給与がMUFA割合に与える影響を調査する肥育試験を実施中。MUFA割合と食味性との関係についてもMUFA割合の異なる牛肉を用いて消費者型官能評価試験を実施する予定。

2. 豚舎における衛生レベル向上に向けた取組（第2報）

(畜産試験場生産環境部 主任研究員 亀位徹)

新しい消毒技術であるマイクロMIX法は、衣類の漬け置き消毒や畜舎周囲の地面の消毒において、当場の従来法(逆性石鹼)より消毒効果が認められた。また、マイクロMIX法を用いた壁の消毒には、液状より泡状の方が効果的だが、表面に凹凸が多い場合は、凹みの奥を洗浄するなどの対策をすることが消毒効果を高める一つの方法である。

3. 光触媒機器設置の採卵鶏への影響（第1報）

(養鶏研究所 研究員 松井望)

鳥インフルエンザ対策は、養鶏経営に大きな負担として経営を圧迫している。その対策として、カルテック株式会社が開発した光触媒機器の除菌風をウインドレス鶏舎の採卵鶏に当て続ける影響について調査した。夏季に高齢鶏と冬季に若齢鶏を調査したところ、産卵成績や卵質検査で影響は認められなかった。